

開催に向けて

さあ、見せましょう、中小企業の底力を!!

第33回経営研究フォーラム

実行委員長 **田村 彰英**

株田村製作所 代表取締役社長

世界的な景気後退、食料・エネルギー危機、ウクライナ戦争…。日本に目を向ければ物価高騰、人材不足、低調なGDP…。危機的要因を上げればきりがありません。しかし、この予測困難な社会変化に対して、ただ指をくわえて待っているわけにはいきません。明るい未来を今の子供たちに遺すのは、私たち中小企業家の役目。私たちは地域・企業の未来をつくる真のリーダーとして、立ち上がる必要があるのです。

第33回経営研究フォーラムでは、バイタリティーと情熱溢れる5名の報告者をお招きします。困難を打開し未来を見据え、変革を続けている皆さんの報告は、私たちの魂に燃え盛る炎を灯してくれることでしょう。

コロナが明けて時代は大きく変わりました。これから生き抜く地域・企業の変革は、トップの力で決まります。だからこそ、わたしたち一人ひとりが、未来をつくる立役者となるのです。さあ、見せましょう、中小企業の底力を!



全国47都道府県
47,000社のネットワーク

富山県
中小企業家
同友会

同友会は、異業種の中小企業経営者によって自主的につくられた任意の非営利団体です。3つの目的(①よい会社をつくろう②優れた経営者になろう③よい経営環境をつくろう)の総合実践、自主・自民・連帯の精神で、国民や地域と共に歩む中小企業を目指します。

※1957年、日本中小企業家同友会(現東京中小企業家同友会)の設立により、同友会の歴史がスタートしました。現在の会員数は、47都道府県47,000社を超えています。富山同友会は全国で22番目、1980年6月に41名で設立し、約500社の会員が学び続けています。

お申し込み方法

参加登録は下記の二次元バーコードよりお申し込みをお願いします。WEBからの参加登録が難しい場合は、右記問い合わせ先まで、メールまたはお電話でお知らせ下さい。(分科会は先着順です。希望分科会を第2希望までご回答下さい。)



締切
10月22日(日)
※10/23以降のキャンセルは全額ご負担いただきます

問い合わせ先

富山県中小企業家同友会 事務局
〒930-0827 富山市上飯野25
TEL 076-452-6006
FAX 076-452-6116
info@toyama.doyu.jp
https://www.toyama.doyu.jp

※ご提供頂く情報は行事運営のため、富山県中小企業家同友会の管理のもとに参加者名簿に活用し、それ以外に使用することはありません。※本行事の内容を撮影・録音し、印刷物やインターネットで公開させて頂くことがあります。不都合がございましたら事務局までご連絡下さい。

富山県中小企業家同友会
第33回

経営研究フォーラム

参加者募集中!

企業家はもちろん、社員さんや学生さんの参加も大歓迎!
地域や企業の未来のために、今こそみんなで立ち上がれ!!

さあ奮い立て!
変革の源はトップの力!
地域・企業の未来は
われらがつくる!

日時

2023年
11月1日(水)

13:00~18:30(懇親会19:00~)

会場

富山県民会館(分科会・基調講演)
ANAクラウンプラザホテル富山(懇親会)

定員 250名

参加費 4,000円(会員・非会員共)
(懇親会:別途9,000円程度 ※参加は任意です)

申込

会員:e-doyuからお申し込み下さい。
非会員:裏面の二次元バーコードよりWEB申し込みをお願いします。

締切 / 10月22日(日)

スケジュール

12:30~ 受付開始
13:00~16:15 分科会
16:15~16:30 会場移動
16:30~18:30 基調講演
18:30~19:00 会場移動
19:00~20:30 懇親会

主催 / 富山県中小企業家同友会

バイタリティーと情熱みなぎる 珠玉の報告を聞き逃すな!

経営理念をもとに木育で未来へつなぐ地域づくり

第1分科会

湯澤 剛氏

(株)ユサワフードシステム 代表取締役 / 神奈川県中小企業家同友会



40朝の来ない夜はない! 40億借金返済の果てに

飲食業を33店舗(年商20億円)経営してきたワンマン社長の父親が急逝。長男として会社を継いでわかったことは銀行借入れが40億円、未払金が1億円以上と判明。会社の運営状況はというと33店舗を2人の店長だけのほったらかしの状態。資金繰り第一の運営に徹した。「決してあきらめない」との強い思いで不安や恐怖の原因と対象をしっかりと見つけることで当面の問題を処理し根本策を考えて実行していった。

結果、着実に返済額を減らしていったのだが、そのさなかに起きた「食中毒の発生」「幹部の急死」「店舗の全焼」の悲劇。原因は経営者としての自分が何も変わってなかったことだと気づく。このころに同友会と出会い借金も義務感もなかったら自分は何のために経営をしているのかと考えさせられ、出てきたのが「みんなと成長して幸せになりたい」「地域から必要とされる存在になりたい」という強い思い、そこから経営理念である「社員が誇りを持って働き、街に喜びと活力をもたらす会社をつくる!」にたどり着く。「朝の来ない夜はない!」これは湯澤社長がこの逆境の中でつかんだ宝物。この信念と言える宝物の経験を困難に立ち向かっている全ての経営者へ勇気が湧いてくる報告です。

会社概要	設立年 1978年
	資本金 950万
	社員数 43名(内パートアルバイト25名)
	事業内容 飲食事業、不動産賃貸事業、勇気事業
	https://yusawafs.co.jp/

第2分科会

別所 長政氏

東洋バレル技研(株) 代表取締役 / 大阪府中小企業家同友会

2008年世界を揺るがすリーマンショック、そして増設した第二工場の負担もあり倒産寸前まで追い込まれた東洋バレル技研。第二工場を閉鎖後、60坪の貸し工場で再起を誓う別所氏。当に斜陽産業に属するバレル研磨業界の中で、沢山の悔しい思いや苦しい決断もしながらも、1社依存の企業経営からの脱却で独立中小企業を目指します。オーナーシップによる決断で会社を見事に立て直し、近年では強いリーダーシップで会社を安定的な成長、高収益体質へ大きく変化をしてきました。2021年度の決算は過去最高の売上高、利益高を記録しました。

「2021年度 売上 220,000,000円 営業利益16%」
経営への思いにだけに留まること無く、継続的に経営実践されてきました。理念という言葉を使う事なく、理念の本質を語る別所氏。数字をみる力や分析力、科学的視点に基づく中長期的な戦略の実践報告をされます。



会社概要	設立年 1977年
	資本金 1,000万円
	社員数 11名(内パート3名)
	事業内容 金属・樹脂部品のバレル研磨、振動式遠心バレル研磨機での加工
	https://toyobarrelgiken.co.jp/

倒産寸前から独立中小企業へ

地域・企業の未来はわれらがつくる!

さあ奮い立て! 変革の源はトップの力!

基調講演

浜野 慶一氏

(株)浜野製作所 代表取締役 CEO / 東京中小企業家同友会 元代表理事(2014~2018)

浜野慶一氏は、東京墨田区に本社を構える浜野製作所の代表取締役であり、産業界における先駆的なリーダーとして広く知られています。1962年に東京で生まれ、東海大学政治経済学部を卒業後、精密板金加工メーカーで経験を積みました。1993年、創業者である父の死去に伴い、浜野氏は代表取締役に就任。しかし、2000年には、近隣の火災によるもらい火で本社兼工場が全焼。建屋も機械も失われ、倒産の危機に瀕します。火災の6年後には顧客100倍・売上高10倍を達成するまでに会社を復興させました。以降、浜野製作所の経営理念は「お客様、スタッフ、地域」への感謝・還元であり、製造業ながらも「おもてなしの心」を掲げ、プレス金型の設計・製作、プレス加工・精密板金加工・機械加工の素材加工はもとより、ロボット開発・設計開発・装置開発、装置・機器の組立まで、幅広い業界業種の課題をサポート・解決しています。

また、東京(都市部)の町工場を取り巻く環境から脱

却するため、自社の強みを生かす様々なプロジェクトに挑戦してきました。産学官連携の一環として電気自動車「HOKUSAI」や深海探査艇「江戸っ子一号」、異業種連携としてアウトオブキッザニアによる職業体験、オープンファクトリー・スミファ、スタートアップ・大企業の新規事業創出や技術支援などを行い、多岐に渡る分野で実績を上げています。これらの取り組みにより数々の賞を受賞し、2018年には天皇陛下も視察に訪れるほどの評価を受けています。

工場全焼当時4社だった取引先は現在約6,000社まで拡大し、大学、ベンチャー、大手企業など、様々な取引先との間で仕事の幅を広げ続けています。講演では、経営理念、産学官連携、ものづくり現場の採用や教育などのテーマに焦点を当て、自らの経験に基づいた現場目線で参加者に語りかけます。彼の講演は、独自の経営哲学と経験豊富なエピソードに裏打ちされ、聴衆にとって刺激的で魅力的なものとなることでしょう。

会社概要	設立年 1978年
	資本金 2,000万円
	社員数 64名(出向者含む)
	事業内容 各種装置・機械の設計開発、精密板金加工、金型設計、プレス加工、機械加工
	https://hamano-products.co.jp/

第3分科会

岸田 毅氏

岸田木材(株) 代表取締役 / 富山県中小企業家同友会 前氷見支部長



岸田毅氏は大学卒業後東京の商社に入社し、26歳で富山に戻り岸田木材に入社。創業140周年を迎える企業の5代目として、地域と深く関わり企業と自然、人、まちをつなぐプロジェクトリーダーです。2012年、聊略的経営塾に参加したことがきっかけで、良品な氷見の杉を多くの方に使って欲しい、「植林から製材までの循環」の理念のもと、氷見の木材関連業の方と「ひみ里山杉活用協議会」を発足させ、ひみ里山杉のブランド化に取り組み、行政や地域の方々や「樹の魅力」を伝えるため氷見市の木育宣言に従い、「森の幼稚園」や氷見高校の「未来講座HIMI学」に関わるなど地域資源や地元の魅力を伝える活動を続けています。

また、商店街にHimi Brico Laboを開業し端材の販売や、廃棄予定だった杉の皮でアップサイクルした天然染料インクを開発販売するなど、企業活動と環境保全の両輪で持続可能な社会を目指して活動をされています。分科会では、岸田氏が同友会に入会し経営理念をつくることで気が付いた企業の目的と自社の存在意義、これからのビジネスプランと木育が可能にする人づくり、まちづくりの展望をお聞かせします。

※戦略的経営塾・同友会会員による勉強会。内田康郎教授(兵庫県立大学大学院教授/高山大学名誉教授)を講師にむかえ、経営戦略の学びと実践の場として2010年より開催。

会社概要	設立年 1883年
	資本金 4,800万円
	社員数 35名
	事業内容 製材業 1本の木の全てに命を吹き込むひみ里山杉を製材し①住宅、②土木建設、③物流資材に加工・販売
	https://www.kishidamokuzai.co.jp

第4分科会

小田 大輔氏

(有)小田商店 代表取締役 / 徳島県中小企業家同友会 代表理事

共有する経営の形

祖父が創業した会社を継いで26年。徳島同友会に入会し12年、代表理事を務める小田大輔氏が、自分がいなくてもまわる会社をつくるために、経営理念である「水の恵みをすべての人に」を社員ひとり一人にどのように伝えてきたのか。

顧客が求める「水道部品の提供」が生んだ価値が「売上」というお金に変わり、一人一人が生み出す「商いの付加価値」が「利益」となることを理解し、全員が自主的に行動できるよう、どのように共有を進め、仕組みを作ってきたのかをお話いただきます。



会社概要	設立年 1953年
	資本金 2,500万円
	社員数 20名
	事業内容 水道部材の販売、機械工具の販売
	https://odss.jp/